



基本CG10枚
差分34枚

di

400円

陸上部員の話。



陸上部員である私、、、。
運動すると体が火照って
欲情してしまう、、、。それを
鎮めるために、、、。

「ふう、終わった……」

ハッ

ムム

ム

陸上の記録会が終了した。この日のために、私はずっと我慢して練習を続けてきた。結果はまあまあ、といったところだ。そして、我慢し続けてきたことで、あることが我慢の限界にきていた。

ムム



（ようやく、これでエッチなことができる♡♡♡）



ハッ

ハッ

ハッ

そう、この日のために、ずっと私は我慢してきたのだ……。そのせいで、体は疼いて仕方がなかった……。これを鎮めるためにも、男が欲しくてたまらなかった……。

ハッ

たまたま近くにいた男性。彼に声をかけることにした。

ドキ
ドキ

「すみません、そこのお兄さん。ちよつといいですか？」

「はい、なんですか？」

ム
ム



「ねえ君、本当に俺なんかでいいの?」

「もちろん♡それともやめて欲しいんですか?」

「そ、そんなことないよ。」

「ふふ、ですよね♡それじゃあ、私のこと、気持ちよくしてくださいね♡♡♡」

ん♡

ん♡

42ポ♡

42ハ♡



早速、私は彼の服を脱がし、彼のものを啜え込んだ。中々の大きさ、長さ、これなら合格である。

「う、うあつ、！そ、そんなことしてもらえるなんて、！」

42ポ、
42ポ、
ふ、
ふ、



ん、
ん、

「ふふ、お兄さんの、大きいです、これなら私も気持ちよくなれそう、」

ん、



「うあああっー!」

「んんっ♡」



「...」

「んっ♡」

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



「ふふ、また出しちゃったんですけど。
私が気持ちよくなる前に疲れないでくださいよ♡」

「はあ、はあ、あ、あ、わかってるよ。」

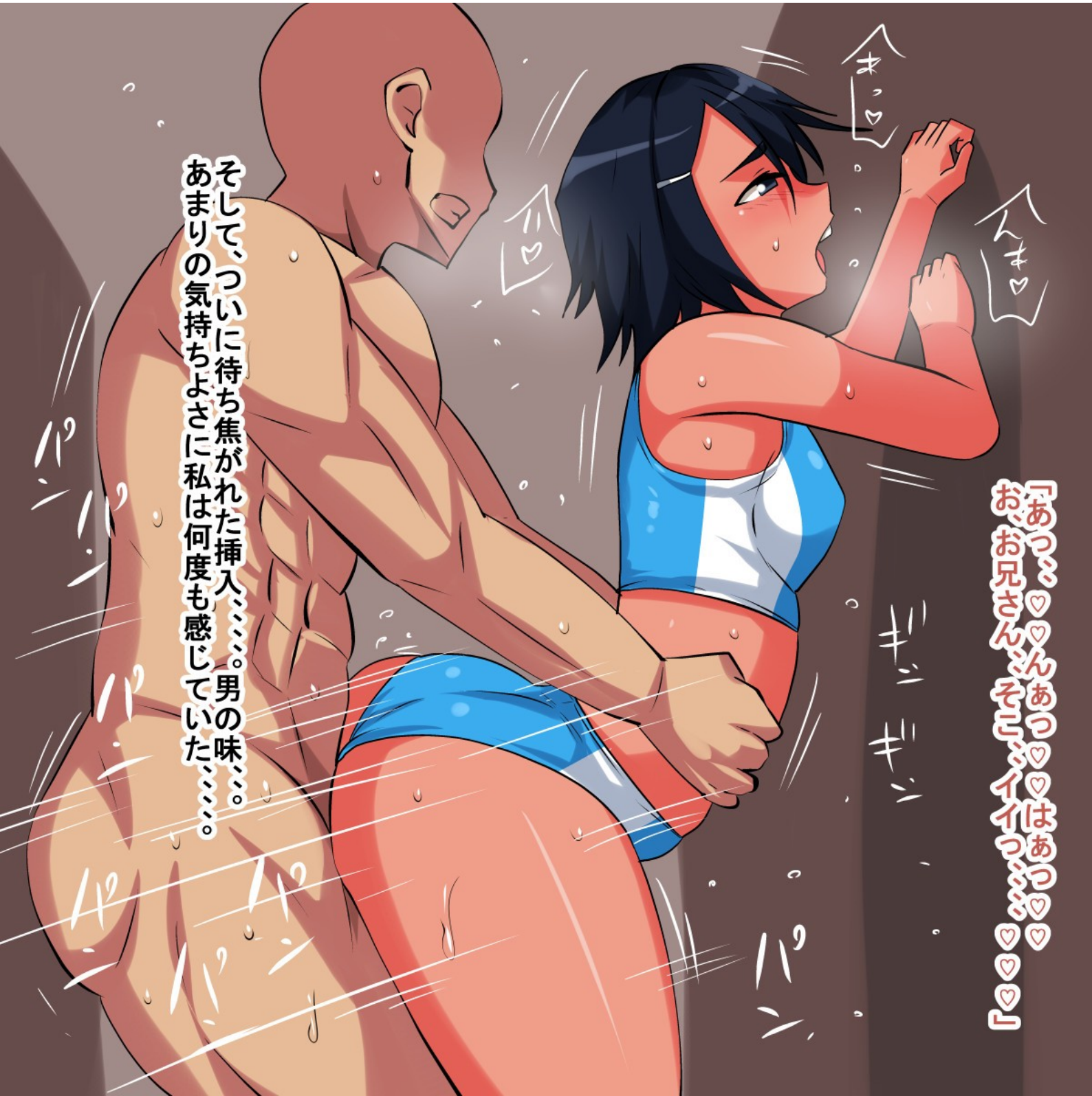
ん

ハハハ

ん

ん

ん



そして、ついに待ち焦がれた挿入……。男の味……。
あまりの気持ちよさに私は何度も感じていた……。

「あつ♡ん♡あつ♡ん♡はあつ♡ん♡
お、お兄さん♡そこ♡イっ♡ん♡♡♡♡♡」



「うんそ、そろそろ……。」

「あつ♡で、出そうなの♡ならよ♡
出して、私の中に♡出して♡♡♡」

「あつ♡んあつ♡
んん♡♡んあつ♡ああつ♡あつ♡」

んん♡♡んあつ♡ああつ♡あつ♡

んん♡♡

んん♡♡



「……」

「あああ♡♡」



「あ、ああ、わかったよ。」

「ねえ、お兄さん、まさか
二回で終わりじゃないよね、？
もう二回、して、♡♡♡」

「はあ、♡♡はあ、♡♡」

『おっ♡♡♡んっ♡♡♡あんっ♡♡♡』

オッオッオッ
オッオッオッ
オッオッオッ

間髪入れずに二回目の交わり、先ほどとは
体位を変え、私が彼の上に跨り、腰を
打ち付けた。





「んんんんんっ♡♡♡♡♡」

んんん
んんん
んんん

んんん
んんん
んんん

んんん

「どうですか？お兄ちゃん。」

ドキ

44

ドキ

「ああ、すいい、こんなにくつきり日焼け跡が残ってるなんて.....」

44



「ふふ、興奮しますか？」

「ううん、ものすけえ。」

ドキ

44



ドキ

44

「よかった、それじゃあ、もっともって私のこと、気持ちよくしてくださいね。」



「あつ♡♡♡んあつ♡♡♡ああつ♡♡♡あつ♡♡♡
あんつ♡♡♡んんんつ♡♡♡んはあつ♡♡♡♡♡」

「いいよ、♡♡お兄さんの♡♡♡
あんなにしたのに、まだ元気♡♡♡♡♡」

アハ
アハ

アハ

アハ

アハ

アハ
アハ



「んっ♡んあっ♡♡ああっ♡♡
だ、出して♡♡♡また出して♡♡♡」

「お兄さんの、たくさん
私の中に注ぎ込んで♡♡♡」

アッ
アッ

アッ

アッ

アッ

アッ
アッ



「あああああああっ♡♡」



「ほら、まだ出るんでしょ？ここから白いの♡♡♡」

「おっ」

「ん、おっ」

「ほら、出して♡♡♡
私が搾り取ってあげる♡♡♡」



「んあああああつ♡♡」

「はあ♡はあ♡」

「ほら♡もう一回♡♡♡」

ハア♡

ハア♡

ハア♡

その日、私が満足したころには
辺りはすっかり暗くなっていた。



この度は当作品をご購入くださり、ありがとうございます。

新年あけましておめでとうございます。
新年になって最初の作品は日焼け陸上娘。今年も変わらず
描きたいものを描くサークルとなることと思えます。
できることならば様々なものに挑戦し、作品数も増やしたい
年にしたいところですよ。よろしくお願いします。

S

※当サークルの全作品の無断転載（購入されていない方が閲覧できるようにする）等の行為はご遠慮願います。ご協力の程、よろしくお願い致します。